

**製品名: サイクリン L1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09604**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	60kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CCNL1
別名	CCNL1; BM-001; Cyclin-L1; Cyclin-L
遺伝子 ID	57018.0
SwissProt ID	Q9UK58
免疫原	抗血清はヒトサイクリン L1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 461-510

**背景**

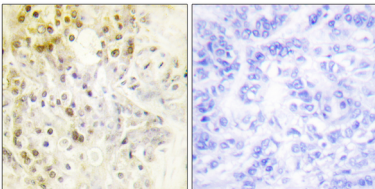
代替製品:Ccnl1 は、独立して制御されるアイソフォームを持つ前初期遺伝子です。ドメイン:C 末端ドメイン内に、スプライシング因子の SR ファミリーの特徴である RS 領域 (アルギニン-セリンジペプチド反復) が含まれます。この領域は、おそらくタンパク質間相互

作用で役割を果たしています。機能転写制御因子であり、pre-mRNA スプライシング プロセスの制御に関与しています。RNA ポリメラーゼ II (pol II) の制御に関与しているようです。サイクリン依存性キナーゼ (CDK) と関連して機能し、スプライシングの2番目のステップで役割を果たします。頭頸部扁平上皮癌 (HNSCC) の候補プロトオンコ遺伝子である可能性があります。CDK 特異的阻害剤 p21 によって阻害されます。、その他:CCNL1 は、いくつかの HNSCC で増幅されます。頭頸部扁平上皮癌 (HNSCC) の局所領域転移の形成および不良な臨床転帰に重要な役割を果たしている可能性がある。、配列に関する注意: クローニングアーティファクトの可能性あり。、類似性: サイクリンファミリーに属します。サイクリン L サブファミリー。、細胞内局在: より具体的には、mRNA プロセシングに関与する核タンパク質の貯蔵コンパートメントである核内クロマチン顆粒クラスター (IGC) (核スペckルとも呼ばれる) に存在します。、サブユニット: POLR2A の過剰リン酸化 C 末端ドメイン (CTD) を介して相互作用します (類似性による)。CDC2L1 または CDC2L2、および SFRS2 と相互作用します。、組織特異性: 胸腺に高レベルで遍在します。頭頸部扁平上皮癌 (HNSCC) の原発性腫瘍における過剰発現。、代替製品:Ccn1 は、独立して制御されるアイソフォームを持つ前初期遺伝子です。、ドメイン:C 末端ドメイン内に、スプライシング因子の SR ファミリーの特徴である RS 領域 (アルギニン-セリンジペプチドリピート) が含まれます。この領域は、おそらくタンパク質間相互作用に関与しています。、機能転写制御因子であり、pre-mRNA スプライシングプロセスの制御に関与しています。RNA ポリメラーゼ II (pol II) の制御に関与していると思われます。サイクリン依存性キナーゼ (CDK) と関連して機能し、スプライシングの2番目のステップで役割を果たします。頭頸部扁平上皮癌 (HNSCC) の候補となるプロトオンコゲンである可能性があります。CDK 特異的阻害剤 p21 によって阻害されます。、その他: CCNL1 は、いくつかの頭頸部扁平上皮癌 (HNSCC) で増幅されます。局所領域転移の形成および頭頸部扁平上皮癌 (HNSCC) の不良な臨床転帰に重要な役割を果たしている可能性があります。、配列注意: クローニングアーティファクトの可能性があり。、類似性: サイクリンファミリーに属します。サイクリン L サブファミリー。、細胞内局在: より具体的には、mRNA プロセシングに関与する核タンパク質の貯蔵コンパートメントである核内クロマチン顆粒クラスター (IGC) (核スペckルとも呼ばれます) に存在します。、サブユニット: POLR2A とその過剰リン酸化 C 末端ドメイン (CTD) を介して相互作用します (類似性による)。CDC2L1 または CDC2L2、および SFRS2 と相互作用します。、組織特異性: 普遍的に存在し、胸腺でより高レベルです。頭頸部扁平上皮癌 (HNSCC) の原発性腫瘍における過剰発現。

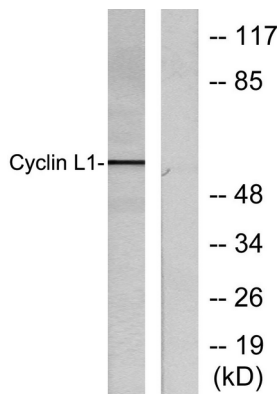
## 研究分野

-

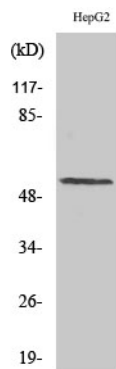
## 画像データ



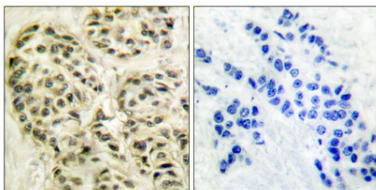
サイクリン L1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



サイクリン L1 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈したサイクリン L1 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。